

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 山をハイケイにして写真をとる。
- 2 カンゴ師になるという夢をかなえる。
- 3 単語のゴゲンを調べる。
- 4 ミンシュウの声に耳をかたむける。
- 5 干潮の時刻を調べる。
- 6 入学試験の対策を練る。
- 7 冬休みに帰郷する。
- 8 垂直の線を引く。

問二 次のことわざの空欄にはそれぞれ体の一部が入ります。考えて答えなさい。また、そのことわざの意味として正しいものを下段のア～エからそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- 1 馬の□に念仏
- 2 木で□をくくる
- 3 □を長くする
- 4 飼い犬に□をかまれる
- 5 開いた□がふさがらない

- ア 早く実現してほしい、と思いながら待つこと。
- イ 年下の者やかわいがっていた者から、裏切られること。
- ウ 人の意見や注意を聞かず、少しも効果がないこと。
- エ 相手の行動などにあきれて何も言えない様子。
- オ 相手の相談や求めているものにたいして冷たく対応すること。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A
よい予兆はいくつかの制度が「弱者ベース」で設計され直され始めたということである。きっかけは大学の授業が2020年の4月からオンライン化されたことだった。

ほとんどの大学はオンライン授業の経験がなかった。だから、準備はたいへんだったと思う。少なからぬ教員は「大学の授業は対面で行うべきものだ。」^{※1}『師の聲^{けい}に接する』ことなしに教育が成り立つのか」という深い疑問^①を抱^{いだ}いていた。それでも、なんとか4月から授業が手探りで始まった。最初はサーバーが落ちたり、音声が消えたり、テクニカルな失敗があったが、数週間でそういうトラブルはだいたい収まった。そして2か月ほど経ったところで教員たちはある変化^Bに気づいた。それは脱落^{だつらく}する学生が少なくなったということである。

これまでだと5月の連休明けくらいで、授業についていけない、授業に興味をもてないという学生が出てくる。科目によっては履修者^{りしゅうしゃ}の30%が姿を消す。それがオンライン授業では減った。どうしてそんなことがおきたのかについて大学教員たちから興味深い話を聴^きいた。

これまで大学というのは「学生が主体的に学ぶ場」だとされてきた。事実はどうあれ、建前はそうだった。だから、積極的に学ぶ意志を持たない学生に、教員側が「手を差し伸^のべる」ということはしなかった。不登校や学業不振^{ふしん}の学生をケアするのは「学生相談室」とか「心理相談室」の仕事であって、教員が自分のクラスの何十人、何百人かの履修者の出欠を気にすることはなかった。

ところがオンラインになると、欠席者に配布物を送ったり、来週までの課題を伝えることができるようになった。「質問があればメールでどうぞ」というメッセージを送ることができるようになった。すると、欠席者が次の週には来るようになった。それでわかったのは、彼^{かれ}らが授業を聴く意欲を失ったのは、教員にCということが一因^{いちいん}だったのである。自分が教室にいてもいなくても、それによって何かが変わるわけではない。その存在感^{きはく}の希薄さ、自己評価の低さが彼らの学習意欲を殺^そいでいたのである。だから、教員から（オンラインであれ）固有名で名前を呼びかけられたことで、ささやかながら社会的承認を得て、課題を提出したりした学生数は前年度を上回ることにになり、平均点も上がった。

オンライン授業がこんなふう成功するとは思わなかったという驚^{おどろ}きの声を聴いて、私はむしろこれまで私たち大学教員がどれほど学生たちに対して「無慈悲^{むじひ}」に接してきたのか思い知ることになった。たしかに大教室の授業の場合、教員は学生を固有名で認知していないし、

よほど積極的な学生でない限り、廊下で教員に声をかけたり、オフィスアワーに研究室のドアを叩いて質問に来るというようなことはしない。だから、ある程度基礎学力があり、授業にそれなりに興味もありながら、いま一つ意欲が足りないという学生はわずかなきっかけて授業に来なくなる。でも、そういう学生を授業に「呼び戻す」ための装置を大学は持っていなかったたのである。

大学は学習強者ベースで制度設計されていた。コロナがそのことを前景化した。学習強者は自分の興味に従って科目を選び、研究室を訪ねて質問をし、大学が提供しているさまざまな教育資源を活用できる。

I、それが高等学校ということなのだから、それでよい。

II、自信のなさやわずかな気後れて、「そういうこと」がどうしてもできない学習弱者もいる。そして、そちらの方が多数派なのである。

III、私たちは彼らのことを大学のフルメンバーとして遇してはこなかったたのである。

学校には学習弱者のための学習トラックも必要だ。そのことを感染症に強制されたオンライン授業で多くの大学教員が気づいた。もちろん、これまで通り、学習強者がアカデミアを最大限に活用できる仕組みは変わらないにしても、学習弱者を呼び戻す仕組みを標準装備することによって多くの大学はこれから取り組むだろう。対面授業ができず、友だちができず、クラブ活動も休止を余儀なくされて、大学教育はこの一年間で大きな痛手を負ったけれど、そこから学んだこともあった。

IV 高校生は自殺が増えた。そうかも知れないと思う。コロナのせいで、高校生にとっての「楽しいこと」は全部なくなったからである。修学旅行も文化祭も運動会も部活もなくなった。さらに全国一斉休校の余波で、彼らはその後、詰め込み授業を強いられている。②限まで授業をしないと学習指導要領が指定する範囲を終わらせられない。生徒たちが授業内容を理解しているかどうかよりも、決められた範囲を終わらせることの方が優先される。授業が理解できない生徒たちを個別的にケアするだけの③ヨリヨクは疲れ切った教員たちにもない。そうやって落ちこぼれた生徒たちは教室にいる理由を見失う。それが自殺が増えたことの一因ではないかという話を高校の現場の教員から聞いた。厚労省は高校生の自殺増加の主因を「進路の悩み・学業不振」としているが、それではあまりに説明が足りない。

F 高校と大学で事態が逆転しているように私には見える。でも、どちらの場合も「学校に通うものにとって何が最も大切なのか？」という根源的な問いを改めて私たちに突きつけていると思う。

学校が果たすべき最も大切な仕事は、彼らをひとりひとり認知することである。そして、「君はここにいて資格がある。君がここにいて私を求めている」と伝えることである。「自分はこの集団のフルメンバーであり、ここは自分のための場所だ」という被承認の感覚を保

証すること、それが教育に携^{たずさ}わる人間の最優先の仕事だと私は思う。

※―師の聲^{けい}咳^{がい}に接する…教員の話^{はなし}を直接聞く。直接会う。

(内田樹『コロナ後の世界』)

問一 ――線部①ゝ③のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 本文中 Iゝ IV にあてはまる語句としてそれぞれ適切なものを、次のアゝエから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア だが イ その一方で ウ また エ もちろん オ にもかかわらず

問三 ――線部A「よい予兆はいくつかの制度が『弱者ベース』で設計され直され始めたということ」とありますが、それまでの大学はどのように制度が設計されていたのでしょうか。本文中より二十字でぬき出して答えなさい。

問四 ――線部B「ある変化」とありますが、それはどのような変化であるか、本文中より十三字でぬき出して答えなさい。

問五 空欄 C に当てはまる語句として最も適切なものを次のアゝエから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 尊敬の念を抱かなくなつた イ 面白い授業を期待しなくなつた
ウ 出席を強制される エ 個体識別されていない

〈下書き用〉

[illegible]

ア 授業を欠席した者に配布物をメールなどで送信する

イ 「学生相談室」や「心理相談室」に行くよう案内する

エ 「質問があればメールでどうぞ」というメッセージを送る

カ オンライン上や、実際に会った時に学生を名前で呼びかける

オ 授業が理解できていない生徒のために補習をする

ウ 授業を欠席した者に取り組むべき課題について知らせる

ア
今までとは逆転して、高校において学習弱者が多くなってしまい、大学では学習強者が多くいる事態になっている。

ウ
今までとは逆転して、高校において自殺者の数が増えてしまい、大学ではその数は年々へってきている。

工
今までは逆転して、高校において修学旅行も文化祭も運動会も部活動もなくなったが、大学では少しずつ行事が再開されている。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いよいよ学校に出た。はじめて教場へはいつて高いところへ乗ったときは、なんだか変だった。^{※1}講釈をしながら、おれでも先生がつとまるのかと思った。生徒はやかましい。ときどきずぬけた大きな声で先生という。先生にはこたえた。今まで物理学校でまいにち先生先生とよびつけていたが、先生と呼ぶのと、呼ばれるのは雲泥の差だ。^Aなんだか足の裏がむずむずする。おれは卑怯な人間ではない。臆病な男でもないが、惜しいことに胆力が欠けている。^{※3}先生と大きな声をされると、腹のへったときに丸の内でどんを聞いたような気がする。最初の一時間はなんだかいいかげんにやってしまった。しかしべつだん困った質問かけられずにすんだ。^{※5}控え所に帰ってきたら、やまあらしがどうだいと聞いた。うんと簡単に返事をしたら、やまあらしは安心したらしかった。

二時間めに白墨を持って控え所を出たときになんだか敵地へのりこむような気がした。^B教場へ出るとこんどの組は前より大きなやつばかりである。おれは江戸っ子できやしゃに小づくりにてきているから、どうも高いところへあがっても押しがきかない。^{※8}けんかならずもうとりとでもやってみせるが、こんな大僧を四十人も前へならべて、ただ一枚の舌をたいて恐縮させるてぎわはない。しかしこんないなか者によわみを見せるとくせになると思ったから、なるべく大きな声をして、少々巻き舌で講釈してやった。最初のうちは、生徒も煙にまかれてぼんやりしていたから、それ見ろとますます得意になって、べらんめい調を用いていたら、いちばん強そうなやつがいきなり起立して先生という。そらきたと思ひながら、なんだと聞いたたら、

「あまり早くてわからんけれ、もちつとゆるゆるやって、おくれんかな、もし。」^C

と言った。おくれんかな、もしはなまぬるいことばだ。早すぎるなら、ゆっくり言ってやるが、おれは江戸っ子だからきみらのことばは使えない。わからなければ、わかるまで待つてるがいいと答えてやった。このちようして二時間目めは思ったより、うまくいった。ただ帰りがけに生徒のひとりがちよつとこの問題を解説をしておくれんかな、もし、とできそうもない幾何の問題を持ってせまったにはひやあせを流した。しかたがないからなんだかなんだかわからない、このつぎ教えてやると急いで引き上げたら、生徒がわあとはやした。その中にできんてきんという声が聞こえる。べらぼうめ、先生だつてできないのはあたりまえだ。できないのをできないというのにふしぎがあるもんか。そんなものができくらなら四十円でこんないなかへくるもんかと控え所へ帰ってきた。こんどはどうだとまたやまあらしが聞いた。うんと言ったが、うんだけでは気がすまなかったから、この学校の生徒はわからずやだと言ってやった。やまあらしは妙な顔をしていた。

三時間めも、四時間めも昼過ぎの一時間も大同小異最初の日にてた級は、いずれもしようしようずつ失敗した。教師はたでみるほど楽しいやないと思った。授業はひととおりすんだが、まだ帰れない。三時までぼつねんとして待ってなくてはならん。三時になると、受持級の生徒が自分の教室をそうじしてしらせにくるから検分をするんだそうだ。それから、出席簿を一応しらべてようやくおひまが出る。いくら月給で買われたからだだって、あいた時間まで学校へしぱりつけて机とにらめっこをさせるなんて法があるものか。しかしほかの連中はみんなおとなしく規則どおりやってるから新参のおればかり、だだをこねるのもよろしくないとおもってがまんしていた。帰りがけに、きみなんでもかんでも三時すぎまで学校にいさせるのは愚かだぜとやまあらしにうったえたら、やまあらしはそうさアハハハとわらったが、あとからまじめになって、きみあまり学校の不平をいうと、いかんぜ。言うなら、ぼくだけに話せ、ずいぶん妙な人もいるからなと忠告がましいことを言った。四つ角でわかれたからくわしいことは聞くひまがなかった。

それからうちへ帰ってくると、宿の亭主がお茶を入れましようと言ってやってくる。お茶を入れるというからごちそうをするのかと思うと、おれの茶をえんりよなく入れて自分が飲むのだ。このようすではるすちゅうもかつてにお茶を入れましようをひとりで履行しているかもしれない。亭主が言うにはてまえは書画骨董がすきで、こんな商売を内内ではじめるようになりました。あなたもお見受け申すところだいぶご風流でいらつしやるらしい。ちと道楽におはじめなすつてはいかがですと、とんでもない勧誘をやる。二年まえある人の使いに帝国ホテルへ行ったときは錠前直しをまちがえられたことがある。ケツトをかぶって、鎌倉の大仏を見物したときは車屋から親方といわれた。そのほか今日まで見そくなわれたことはずいぶんあるが、まだおれをつらまえてだいぶご風流でといらつしやるものはない。たいていはなりやようすでわかる。風流人なんて言うものは、絵を見ても、ずきんをかぶるか短冊を持つてるものだ。このおれを風流人などとまじめにいうのはただのくせものじゃない。おれはそんなのんきな隠居のやるようなことはきらいだと言ったら、亭主はへへへとわらいながら、いえはじめから好きなものは、どなたもごさいませんが、一たんこの道にはいるとなかなか出られませんかひとりで茶をついで妙な手つきをして飲んでる。じつはゆうべ茶をかってくれとたのんでおいたのだが、こんなにがい濃い茶はいやだ。一ぱい飲むと胃に答えるような気がする。こんどからもつとにがくないのをかってくれと言ったら、かしこまりましたとまた一ぱいしぼって飲んだ。人の茶だと思っておやみに飲むやつだ。主人が引きさがってから、あしたの下読みをしてすぐ寝てしまった。

※1 教場…教室。

※3 胆力…物事を恐れたり、気おくれしたりしない気力。度胸。

※5 控え所…職員室。

※7 白墨…チョーク。

※9 解釈…解説。

※11 検分…点検。

※13 履行…実際に行うこと。

※15 錠前直し…鍵の修理をする人。

※17 ずきんをかぶるか短冊を持っている…和歌や俳句を詠む人

※2 講釈…授業。

※4 丸の内でどんを聞いた…東京で正午の合図として撃^うっていた空砲。

※6 やまあらし…同じ学校の数学主任教員につけたあだ名。

※8 大僧…大きな男の子。

※10 幾何…算数の分野の一つ。

※12 忠告…注意。

※14 道楽…趣味として楽しむこと。

※16 ケット…毛布。

※18 下読み…下準備。

問一 — 線部 A 「なんだか足の裏がむずむずする」とありますが、なぜ「足の裏がむずむずする」のですか。その理由を説明した次のぶんの空欄 ①、② に当てはまる語句をそれぞれ①は十三字、②は十四字でぬき出して答えなさい。

① と思っているのに、生徒が ② から。

問二 — 線部 B 「敵地へのりこむ」は「授業をする」のたとえですが、どんなふうに授業をしましたか。本文中からその部分をぬき出して答えなさい。

問三 — 線部 C 「あまり早くてわからんけれ、もちっとゆるゆるやって、おくれんな、もし。」とありますが、に対しての答えになる部分の最初と最後の五文字を本文中からぬき出して答えなさい。

問四 — 線部 D 「生徒がわあとはやした」のはなぜですか。その理由を本文中の言葉を使って答えなさい。

問五 — 線部E「教師ははたで見るほど楽じゃない」とありますが、教師の仕事の中で何が大変だと言っていますか。次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア できない問題でもできるような顔をしなければならないこと
- イ 自分の受け持ちの授業が終わっても、三時まで待っていないなければならないこと
- ウ 三時になると、自分の受け持ちの教室を生徒と一緒にそうじしなければならないこと
- エ 新参者が学校の不平不満を言うと、他の教員から目をつけられてしまうこと

問六 — 線部F「とてもない勧誘」をしたのは誰ですか。本文中からぬき出して答えなさい。

問七 — 線部G「鎌倉の大仏」とありますが、次の「奈良の大仏」について説明した文の空欄①②③に当てはまる語句を後のア～エの中から選び記号で答えなさい。

奈良の大仏は、当時発生した地震や疫病といった災いの救いを仏教に求めて①が、造立を発願しました。

②県の③寺に安置されています。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|------|-------|
| ア 桓武天皇 | イ 聖武天皇 | ウ 聖徳太子 | エ 奈良 | オ 和歌山 |
| カ 三重 | キ 金閣 | ク 延暦 | ケ 東大 | コ 浅草 |

問八 ――線部H「この俺を風流人だなどとまじめにいうのはただのくせものじゃない」とありますが、「おれ」は「風流」をどのようなことだと考えていますか。次のア～エから二つ選んで記号で答えなさい。

- ア 書画骨董が好きな人が、大々的ではないがそれらを扱^{あつか}う商売まで始めるようなこと。
 - イ 絵を見るときでもずきんをかぶったり、短冊を持って和歌や俳句を詠もうとすること。
 - ウ のんきな隠居となった身分で、時間をもてあましているような人がやるようなこと。
 - エ 最初はそうでなくても、いったんやりはじめると抜けさせなくなるようなこと。
- オ 胃に悪いのではないかと思えるくらい濃くてにがいお茶でも何杯も飲んでしまうようなこと。

問九 本文中の^{ない}と同じ「ない」を使って短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず使いなさい。また、本文の語句や文を利用しただけの解答は不正解とします。